

陳情第2号

地球で生き続けるための地球社会建設希望決議を、今、していただきたい陳情書

平成29年8月28日受理

陳情者 ●●●●●●●●●●●●●●●●
荒 木 實

戦争に殺されてはならない。人類は悪循環に陥っています。自滅への流れです。悪循環。人間の人生にも起きています。人間はその悪循環を断つことができます。何が最も大切なものか、大切なものを守るためにどう生きるかを認識し、生き方を変えれば、人生を変えられます。勇気が要ります。努力が必要です。生きるためならやるしかありません。軍拡・温暖化・格差社会。人間行動が源です。今までの人間の生き方のためです。長い間の「力による占有ごっこ競争」のためです。人々は、極限に近づいていることを感じながら、生き方を変えることができません。一番大切なものを見失っているからです。人間を生きさせている本体は何かをです。生命の本質とは何かをです。人間が生きていく上で、最重要な原則は何かをです。地球を守る。助け合って生きる。この生き方しかありません。「世界の安全」。地球で生きる人間が目標としなければなりません。「生命の絶対命令」であることを認識すべきです。生命を守るために、個々が意識と心を変えるならば人間行動が変わります。

ついては、地球で生き続けるための地球社会建設希望決議を、今、していただくよう陳情します。

地球社会建設希望決議草案

- 1) 人間を生きさせている本体。地球である。考えることさえできない時間、そして考えられない偶然の積み重ねで、生命が守られる地球がある。この地球こそ、生命の本体である。時を超えて、生命はつながって来ている。生命の本質である。地球を守る。生命を守る。生命の絶対責任であり、生命の絶対命令である。地球を守れる人間社会体制の創造は、全地球市民が参加すればできることである。人間にはその力があると確信するものである。
- 2) 軍拡・温暖化・格差社会。今までの人間の生き方の結果の事態である。この生き方の行き着く先は、全ての人間が感じている自滅である。生き方を変えれば、生存への道が見えてくる。地球で生きている全ての人間が一体となって、地球を守れる地球社会を建設する道である。
- 3) 地球社会の目的・目標は、地球全生命とともに、全ての人間の人生を守ることにある。そのための社会技術の開発に努めねばならない。この規定は、人類の戦争放棄を意味し、宣言するものである。地球市民の安全を守る「守り人の組織」は、地球社会で一元化されるものである。

- 4) 人道・人権は地球社会の基本法である。陸・海・空の空間、石油ほかの資源、先人たちの遺産は、現存する地球市民全員の共有である。地球市民の生活空間・人生は、社会管理運営技術によって、保障されなければならない。共有の原則の上に、地球社会は構築されねばならない。
- 5) 人間は一人で生きられない。人間には必ず寿命がある。生命をつなぎ、生命を守る。その生き方は、地球を守り、助け合って生きていく生き方しかない。地球で生きていくための唯一の生き方である。その生き方への道を開くため、地球社会建設希望決議をする。